

「全国学力・学習状況調査」の結果について

全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に実施している「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。この調査は、文部科学省や教育委員会が全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析、教育政策の成果と課題を検証し、その改善などに役立てることが求められています。この調査は、「教科に関する調査」と、生活習慣や学習環境に関する「質問紙調査」で構成されています。本校では、全教職員で結果の分析を行い、各教科で取り組みについて振り返りを行いました。今年度の分析結果の概要を保護者の皆様にお知らせいたします。

学力の向上におきましては、保護者や地域の皆様と学校とが一体となって取り組んでいくことが大切です。1、2年生を対象に三重県が実施している「みえスタディチェック」や松阪市が実施している「松阪市標準学力調査」の結果も踏まえ、私たち教職員もよりわかる授業への改善をめざして研修に取り組んでいきますので、今後ご協力をお願いいたします。

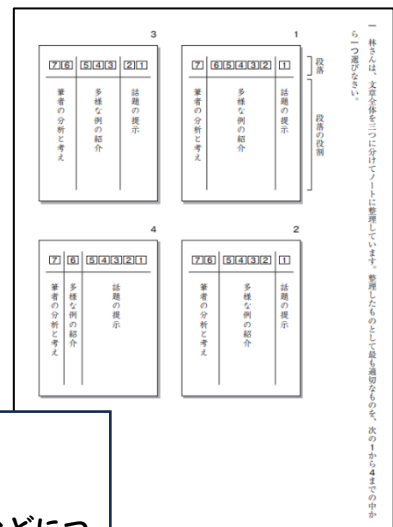
「教科に関する調査」の結果

【国語】

国語は学習指導要領に示されている、思考力、判断力、表現力を問う問題や言語、情報の扱い方に関する問題が出題されました。話し合いや文章の交流を通して自分の考えを深めたり、語句や表現の効果を捉えたりすること、また文章の内容を正確に理解した上で自分の考えをまとめることが求められました。

本校の強みとしては、「互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること」「交流を通して自分の文章を見直し、よい点や改善を見いだすこと」「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること」が挙げられます。これらの問題については全国平均正答率を上回る結果となりました。特に、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること」（二つの文章を比較しながら擬態語の効果を説明する問題）では全国平均を大きく上回っており、言葉の働きや表現の工夫に着目して読む力が身に付いていることが分かります。これは、国語科で取り組んでいる話し合い活動や交流活動による推敲、日常的な記述活動の成果であると考えられます。しかし、全国平均を上回った問題であっても、本校の正答率は57%程度にとどまっており、十分な定着が図られているとは言えません。また、「必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる。」問題に苦手感が見られました。話の内容を理解することはできていても、必要な情報を聞き取りながら整理し、的確に内容を捉えることに課題があると考えられます。今後は、話し合いや発表を聞く活動において、必要な情報を整理しながら聞くことや、質問を通して内容を確認し理解を深める活動を充実させていく必要があります。

さらに、「文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉えることができるかどうかをみる」問題においても苦手感が見られました。文章中の事実と意見との関係や、中心的内容と具体例・補足説明との関係を整理しながら要旨を捉えることに課題が見られます。文章全体の構成や段落相互の関係を意識しながら読み進める力を育成するとともに、要旨をまとめる活動を継続して取り組む必要があります。



課題 国語4 I

本校正答率 67.9% (県正答率 71.6%)

「文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に 捉え、要旨を把握すること。」に課題

今後は、話し合いや説明文・論説文の学習において、複数の情報を比較・整理して考えを形成する活動や、文章の構成や内容の関係を捉えながら要旨を把握する活動を重点的に行っていきます。また、根拠を明確にしながら自分の考えを記述する学習を積み重ねることで、読むことと書くことを関連付けた指導の充実を図っていきます。

無回答率については比較的低く、最後まで粘り強く問題に取り組む姿勢が見られました。一方で、複数の情報を基に考えをまとめたり、文章の要旨を説明したりする記述式の問題では十分に力を発揮できていない様子も見られます。今後は、条件に応じて考えをまとめる記述問題や要約活動を授業に積極的に取り入れ、自分の考えを根拠とともに表現する力の向上を目指していきます。

【数学】

数学は、単純に計算するだけでなく、図や表から成り立つと予想される事柄や事実を見いだし説明したり、根拠を示して事柄が成り立つ理由を説明したりする問題が多く出題されていました。本校は、グラフから判断しデータの傾向をとらえて判断することや、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができる問題について全国の平均正答率を大きく上回りました。日々の授業の中で数学的に理由を説明させる場面設定を多く取り入れるよう意識し、取り組んできた結果だと考えられます。しかし、起こりうる場合を樹形図などで整理し確率を求める問題や、事柄について説明するのための方針を立てる問題は、全国の平均正答率を下回りました。

- 5** 大小2つのさいころがあります。この2つのさいころを同時に投げるとき、大きいさいころの目が6であり、小さいさいころの目が1である確率を求めなさい。ただし、どちらのさいころも1から6までの目の出方は、同様に確からしいものとします。

課題 数学**5**

本校正答率 42.9% (県正答率 57.5%)

起こりうる場合を樹形図などで整理し確率を求める問題

1/12や1/6という解答が合わせて30%ほどあったため問題文からどんな場合なのかを考え、確に求めることができるようにする必要があります。また、記述式の問題の無回答率は平均して少ない傾向にあります。授業の中で、理由を説明させる場面設定を多く取り入れてきたため、記述することはできているが、必要な数値や数学的な表現を使うことができていないという解答類型が多かったです。数学用語を使って問題解決の方法を説明することができるよう、継続して取り組む必要があると考えられます。

【英語】

英語は学習指導要領に示されている5つの領域「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やりとり]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」のすべてについて調査が行われました。実際のコミュニケーションで活用できる技能を身につけているかどうか、また必要な情報や概要、要点を捉えたり、まとまりのある英文、考えや理由などの英文を話したり書いたりすることができるかをみる問題が出題されました。その中で、注文の場面での店員と客の会話や、社会的な話題について話を聞き要点を捉える問題、グラフに関する文章を読み取る問題では全国の前年正答率を上回りました。授業の中で、会話文や説明文を聞くことを通して理解する活動や主語と動詞、副詞句など意味のまとまりを意識して読む活動を今後も続けていくことが必要です。一方で、インターネットに関する短い文章を読んで書き手が最も伝えたい内容を選択する問題では、複数の情報から最も重要な情報がどれかを判断することができていませんでした。考えを表すときの表現が理解できていなかったり、大事なことは文章の最後に書かれていると誤って捉えたりして誤答した生徒が多かったと考えられます。

また、与えられた情報に基づいて過去の出来事を説明する文を書く問題は、2問とも全国の平均正答率を下回りました。動詞の過去形は1年生の最後に学習した内容ですが、簡単な過去形を用いて正確に書くことができず、無回答率も高い結果となりました。正しく書くことができるように、新しい文法事項などを扱うときは、関連のある文法事項をまとめて整理し、違いを理解しながら学習をすすめるようにしていきたいと思います。そして生徒が間違えたときは全体で共有し確認した後、さらに読んだり、書いたりする練習を繰り返していくことが必要であると考えます。

【表】

例	メイが起きた時刻	7時(seven)
①	メイが行った場所	公園(the park)
②	メイがしたこと	テニス(tennis)

<解答欄> ※半角で入力してください

例

①

②

課題 英語 11(1)(2)
 本校正答率 46.4% (県正答率 54.4%)
 簡単な語句や文を用いて正確に書くことに課題

「質問紙調査」の結果

生徒質問紙は、生活の諸側面や豊かな心の育成に関わること、学習意欲、学習方法、学習環境などの学習に関する質問があります

生活の諸側面や心の育成に関する内容については、「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問に対して、92.9% (全国比+2.1%)、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」については96.5% (全国比全国比+0.6%) の生徒が、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答しています。また、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対しては、肯定的な回答をした生徒は89.3% (全国比+17.0%) という高い数値となっています。他者を思いやる気持ちや社会に貢献しようとする意識が高まっており、豊かな人間性や社会性が育まれていると考えられます。

学習に関する内容については、「学校の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という質問に対しては89.3% (全国比+2.3%)、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という質問に対しては100% (全国比+7.6%) の生徒が、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答しています。ペアやグループでの対話や協働的な活動を通して、自分の考えを振り返り学びを深めている姿が見受けられます。しかし家庭学習においては、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」という質問に対して、1時間以上と答えた生徒は 53.6% (全国比-8.0%)、「学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」という質問に対して、2時間以上と答えた生徒は28.6% (全国比-1.3%) となっ

ています。この回答は昨年度の本校生徒と比べても、平日1時間以上勉強すると答えた生徒は-4.5%、休日に2時間以上勉強すると答えた生徒は-10.1%となっており、家庭学習の時間が減少しているということがわかりました。逆に「普段、1日当たりどれくらいの時間、SNS や動画視聴などをしますか」という問いに対して3時間以上と回答した生徒は67.9%（全国比+18.3%）となっています。また、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした生徒は67.9%（全国比-10.1%）、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に対しては75.0%（全国比-4.0%）となっています。授業で学んだことと家庭学習をつなぐことができるように工夫したり、生徒の理解に応じて個別にアドバイスしたりすることで、生徒が主体的に家庭学習をすすめられるようにしていく必要があります。今後も学校・地域・家庭が一体となって子どもたちの自尊感情を高めながら、自ら学ぶ姿勢を身に付けて計画的に学習を進め、それぞれが希望する進路を実現できるようにしていってほしいと思います。